

## 2006年度 第5回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開催日時：2006年9月12日(火) 午後7時15分～9時15分  
開催場所：西東京ボランティア・市民活動センター活動室  
出席委員：阿部靖子、熊田博喜、坂口和隆、瀧島喜重、安岡厚子、柳澤正樹、山下恭子  
<以上7名、敬称略、あいうえお順>  
欠席委員：飯塚 睦、<以上1名、敬称略、あいうえお順>  
事務局：齊藤 睦(地域福祉課長)、中澤一郎(主事)、今林朝香(コーディネーター)  
平田典子(コーディネーター)、丸木 敦(係長)、実習生2名

### 配布資料

資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(7・8月)  
資料 2：コーディネート状況等月次報告  
資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表(9月)  
資料 4：2006年度第3回災害時のシステムづくり専門委員会会議録<確定稿>  
資料 5：社会福祉法人西東京市社会福祉協議会ボランティア推進事業積立金規則  
資料 6：補助金の所管替えに関する検討資料  
資料 7：2006年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>  
資料 8：西東京ボランティア・市民活動センター事業評価シート  
資料 9：2007年度新規事業(案)  
資料 10：運営委員会候補者リスト

委員長：今日は、実習生が見学に来ているので、会議の最後に実習生に感想を述べてもらいたい。報告事項以外に議題として5項目あるので議事進行に協力をお願いしたい。では報告事項から始める。

## 1. 報 告 事 項

### (1).西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

事務局より、資料1に基づき7、8月の業務報告を行う。引き続き夏体験ボランティア事業の実施報告を行う。

委員長：7月、8月の業務報告での質問はあるか。

委員長：保谷第二小学校で防災関係のデイキャンプを実施したが、多くの参加があった。市内の各学校で防災に取り組み始めたことは良いことだと思う。

委員長：メールボックスの貸し出しは今後利用団体が増えるのか。

事務局：NPO法人やボランティア団体にはすでに個別に案内をしているが、利用申し込みはない。既存の団体からの利用申し込みは期待できない。新規に設立される団体にPRしていきたい。また、10月に発行される社協だよりに記事を掲載してPRする予定である。

委員：活動室を利用する人を増やしたほうが良いのではないか。

事務局：メールボックス設置の当初の目的は活動室の利用を高めることであったので、今後それをどのように工夫するかが課題だと思っている。

委員長：7、8月の業務報告について他に意見、質問はあるか。なければ続いて夏体験ボランティア事業について意見、質問を出してほしい。

委員長：小学生の参加は特定の学校に偏っているのか。  
事務局：どちらかというと田無地域の小学校の児童が多い。  
委員：大学生はどこかの大学からの参加が多いのか。  
事務局：武蔵野大学の学生が一番多い。  
委員：武蔵野大学の福祉系の学部が昨年度までは150名定員だったが、今年度は100名定員になったことが、昨年より武蔵野大学の学生が減った原因かもしれない。今後も学生に体験ボランティアへの参加を促したいと思っている。  
委員長：都立高校での奉仕活動の義務化はいつから始まるのか。  
事務局：平成19年度から始まる。すでに武蔵高校、田無高校、田無工業高校、保谷高校から奉仕活動についての相談がある。どのように奉仕活動としての受け入れをしていくかが今後の検討課題となっている。  
委員長：ボランティア活動についての理解をしてもらうことが大切だと思う。他に意見、質問はあるか。なければコーディネート状況の報告をしてほしい。

事務局より資料2に基づき7月、8月のコーディネート状況の報告を行う。

意見、質問なくコーディネート状況の報告を終了する。

委員長：では、続いて9月の事業予定についての説明をしてほしい。

事務局より、資料3に基づき9月の事業予定を説明する。

委員長：柳沢児童館で地域の団体が中心となってむくのき祭りが行われるが、ボランティア・市民活動センターは関わるのか。  
事務局：武蔵野大学の摩耶祭と時期が重なり、摩耶祭への参加を決めているためむくのき祭りに関わることは難しい。

他に意見、質問なく以上で9月の事業予定の説明を終了する。

## (2) 災害時のシステムづくり専門委員会活動報告

事務局より、資料4に基づき第3回災害時のシステムづくり専門委員会（以下、災害専門委員会と表記）の協議内容および災害講演会の開催について報告がある。

委員長：災害時にボランティア・市民活動センターが災害ボランティアセンターを担うにあたって、その機能、役割については運営委員会でも協議が必要なのではないか。  
事務局：10月に開催される運営委員会で協議していただきたい。  
委員：復興支援は災害ボランティアセンターを閉じてから行うのか。  
事務局：災害ボランティアセンターを閉じても復興支援は続くので、ボランティア・市民活動センターが引き続き行うことになる。  
委員長：大災害時に災害ボランティアセンターを立ち上げるばかりではなく、比較的軽微な災害のときにボランティア・市民活動センターがその対応を行うことも考える必要があるのではないかと。職員の発意によってその動きができることが必要である。  
事務局：そのとおりだと思う。独自に災害ボランティアセンターを立ち上げるような仕組みが必要だと思っている。

以上で災害専門委員会の状況報告を終了する。

### (3).理事会報告

委員長より報告 8月30日に開催された理事会において、社会福祉法人西東京市社会福祉協議会ボランティア推進事業積立金規則の改正が承認された旨の報告がある。

### (4).補助金の所管替えについて

事務局より、西東京市からの補助金の所管替えについて西東京市担当課との調整状況について報告がある。

委員長：職員が異動することは可能か。

事務局：人件費全額が生活文化課からの補助金になった場合は異動は難しい。

以上で補助金の所管替えについての西東京市との調整状況報告を終了する。

## 2. 審 議 事 項

### (1). 2006年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録について

資料7により、第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。

修正意見等なく、第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）を確定稿とした。

### (2). 事業評価について

事務局より資料8に基づき、すでに実施した事業を評価した結果について説明、報告がある。

委員：評価にどのくらいの時間がかかったか。

事務局：約10時間かかった。

委員：一気に集中的に行ったのか。

事務局：月2回開催している係会議の中で行った。係会議では他にも議論する事項があったので、係会議の前半を費やした。したがって評価実施期間としても長くかかった。

委員：一つひとつの項目について議論によって評価点数を決めるのではなく、各職員が出した点数の平均値を取ることも一つの方法ではないか。

委員：事業によってはあてはまらない不要な評価項目は省略しても良いのではないかと思う。

委員：評価をどのような方法で行ったのか。

事務局：一つひとつの項目について職員間で議論して行った。

委員長：時間はかかるが、議論をする過程が大切だと思う。

委員長：評価シートに事業実施日も記入したほうがよい。

委員：評価をしてみても感想を職員から聞きたい。

事務局：一つの評価項目でも、どこに視点を置くかによって点数が変わった。他の職員がどのように考えていたかを知ることができた。

事務局：自分で評価するごとに点数が変わることもあった。同じ目標をもって進めることが必要だと思った。

事務局：評価項目の文章をどのようにとらえるかによって考え方が変わった。

委員：一度、平均点による場合と、議論をした結果の点数とでどのくらい点数が変わるかを試してみてもどうか。

委員長：目標に対してどのくらいの割合で実行できたかなどの数値的な結果も出しておくことが必要

だと思う。

事業評価項目については修正を行わずに、引き続き現在の評価項目シートを使い評価していくことを確認した。

### (3)．2007年度事業について

事務局より、資料9に基づき、2007年度の新規事業についての事務局案を説明、提案する。

委員長：まず、地域交流会についての意見はあるか。

委員：地域交流会についてはないが、広報のしかたについては充分議論する必要があると思っている。

事務局：前回の運営委員会でも意見が出されているが、ボランティア・市民活動センターの広報のあり方については集中的に協議していただきたいと考えている。

委員：地域交流会は新規事業としての位置づけになっているが、企業の社会貢献への協力という点ではすでに実施しているのではないか。

事務局：企業の単独の社会貢献活動にはすでに当センターは関わっているが、今回の企画は、企業と地域の団体をつなげるという視点で取り組みたいと思っている。そういう意味では新規の取り組み事業と考えている。

委員：企業の立場からは、この企画をぜひやってほしいと思う。

委員：青年会議所が行うわんぱく相撲に、このような内容で関わってもよいのではないか。

委員長：この企画のネーミングはもう少し考えたほうがよい。

委員長：では続いて春休み体験ボランティアについての意見はあるか。

委員：初めてボランティア活動をしようという人は不安なので、はじめの一步講座を体験の前に実施してはどうか。また、参加者の受付場所を田無総合福祉センターだけではなく、にこにこや保谷地域にも拡大してはどうか。

委員：過去の夏体験ボランティアの募集の方法と現在の募集方法が異なっている。体験ボランティアに参加したい人が申し込み時に直接受け入れ先の担当者と接することで参加者の意識も変わるのではないかと考えるが、募集方法を変えた理由は何か。手間がかかることが理由か。

事務局：合併前のたなしボランティア・センターでは委員が言った方法で実施をしていたが、合併後、協力してくれる受け入れ先の数が増え、今年度は90の団体、施設から協力を得ている。このような状況で参加者と受け入れ先が一堂に会することは困難であり、またそのような方法をとると、指定した日に来ることができない参加希望者は、参加できなくなってしまうと考え、現在の方法をとっている。現在の受付方法をとることにより、申し込みを受けるごとに調整をしなければならず、手間としては現在のほうがかかっている。

委員長：春休み体験ボランティアとすると子ども対象となるので、夏体験ボランティアと区別をするのであれば、子ども、親子、シニア層に限定したほうがよい。

委員長：最後にはじめの一步講座についての意見を出してほしい。

委員：はじめの一步講座を出前して実施してはどうか。

委員：PTA活動に出前してこの講座を行ってはどうか。

委員長：若い人の溜まり場的な雰囲気ボランティア・市民活動センターに作るが必要ではないかと思う。

事務局：最近の登録者の傾向として、20代の登録者が増えている。

委員：ボランティア・市民活動センターに寄せられるニーズではどのような活動が望まれているのか。

事務局：子どもの保育や、外国人に対して日本語を教えるなどの活動の希望が多い。

以上の意見が出され、2007年度事業として新たに地域交流会、春休み体験ボランティア、はじめの一步講座に取り組むことが承認された。

#### (4).西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会委員の選出について

事務局より、資料 10 に基づき運営委員会委員候補について提案がある。

委員：環境関係の活動をしている人に運営委員になってもらってはどうか。

委員長：子ども関係の NPO 法人が市内には少ないが、そのような団体から加わってもらうことも良いのではないかと。

委員長：他に意見はあるか。なければ運営委員会委員の新任期において 1 名増員するにあたり、事務局に一任して良いか。

異議なく、運営委員会委員の新任期に 1 名増員するにあたっての候補者について、事務局に一任した。

#### (5).摩耶祭、市民まつりについて

事務局より摩耶祭、市民まつりへの参加の方法について説明、提案がある。

委員：学生が主体となり、災害をテーマに摩耶祭で研究発表をすることになっている。ボランティア・市民活動センターに学生から問い合わせがあるかもしれない。

他に意見、質問なく摩耶祭、市民まつりへの参加について承認される。

以上をもって、2006 年度第 5 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し、散会する。